

宮沢首相主催晩餐会における

ジョージ・ブッシュ・アメリカ合衆国大統領の乾杯の辞（草稿）

（一九九二年一月八日、首相官邸）

宮沢総理、渡辺副総理、各大臣の方々、ならびに、ご列席の皆さま。

宮沢総理、私たちの会談から早速に明らかかなように、私たちには多くの共通点があります。二人とも、ゴルフをやり、野球が好きです。また、二人とも、自分には過ぎた妻をもっている点でも共通しています。最も重要なのは、二人とも、両国間に、より強いきずな、よりよい貿易、より緊密な友好関係が生まれることを望んでいることです。

バーバラと私は、本日お招きを受け、光栄に思っております。皆さまと共に新年を迎え、また、誠意と理解をもって、来たるべき世紀に思いを馳せることができますのを、誇りに思います。

総理、総理大臣ご就任に心からお祝いを申し上げますとともに、これから一緒に仕事ができるのを本当に楽しみにしております。総理が今年初めに述べられましたように、「アメリカと日本は、同じ価値観を共有しており、世界秩序に対して重い責任を担っている」のであります。アメリカと日本は、パートナーとして、共に前進しなければならぬというのが、私の信念です。

私たちは、冷戦後の世界について共通のビジョンをもっています。そのビジョンとは、自由で平等な競争を可能にする共通のルールのもとで、グローバルな貿易制度によって結ばれている世界です。

総理、両国民ともに野球が好きですから、この新しい世界を、次のようにとらえてみるの良いかもしれません。総理は、日本は「チーム・プレーの国」であると言われたことがあります。それはアメリカにも言えると思います。ですから、自由で開かれた貿易という競技の場で競争しようではありませんか。開かれた競争と緊密な協力は、日米双方を勝者にしてくれるでしょう。

平和と繁栄の新時代を実現するために、二国間で協力すれば、日本とアメリカほど、多くのことができる国は他にありません。総理はかつて、「人類の利益になる経済を構築し、未知に挑戦することが必要だ」と語られました。私たちは来たるべき世紀のさまざまな課題に直面していますが、共に力を合わせ、グローバル・パートナーシップを構築していくうではありませんか。私たちの子供たちのために、そのまた子供たちのために、私たちはこれらの機会をとり逃がしてはなりません。

宮沢総理、総理は「大樹深根」という言葉がお好きだと伺っております。将来のすべての世代を守ってくれるように、この成長し続ける日米友好の木を大事に守り育てていこうではありませんか。ここに杯を挙げて、日米友好に乾杯いたします。